

2007年度 公認野球規則改正点（抜粋）

1) 5・10(f), 7・04(c)

野手がダッグアウトに足を踏み込んで捕球することを認めず、ファウルとする。ダッグアウトに入って飛球を捕った場合、今まではアウトだったのがファウルになる。

（危険回避のため）片足でもベンチについて捕球するとファウルになる。正規の捕球後、ダッグアウトに踏み込んだ場合はボールデッドとなる。

2) 6・05(k) [原注]

スリーフットレーンを示すラインはそのレーンの1部であり、打者走者は両足をスリーフットレーンの中、もしくはスリーフットレーンのライン上に置かなければならない。ラインはスリーフットレーンを構成する一部である。

〈スピードアップの厳格化〉

3) 6・02(c)

打者がバッターボックス内で攻撃姿勢をとろうとしなかった場合、球審はストライクを宣言する。（遅延行為）その後はボールデッドとなり走者は進塁できない。

4) 6・09(b) [原注]

第3ストライクと宣言されただけで、まだアウトになっていない打者が気づかずに1塁へ向かおうとしなかった場合、その打者はホームプレートを中心とした直径26フィート（7m92.5cm）の土の部分（ダートサークル）を出たら直ちにアウトが宣告される。

5) 3・01(f)

球審は試合開始前に公認ロジンバッグが投手板の後方に置かれていることを確認しなければならない。「投手板の後方」とはマウンドの勾配を下りたところで、打者席から見えないところと考える。

6) 8・04

無走者の時、投手の投球間隔を20秒から12秒に短縮する。時計の計測は投手がボールを所持し、打者が攻撃姿勢をとったときからとする。

〈規則適用上の解釈の確認〉

7) 2・15

打球または送球が野手のグラブに挟まった場合、ボールは生きておりインプレイである。野手はグラブにライブのボールが挟まったまま、そのグラブを投げることは正規のプレイである。ボールが挟まったグラブを捕った野手は規則どおりにボールを所持したとみなされる。

8) その他（特に注意すること）

①投手はセットポジション時に必ずセットを静止させなければならない。

②グラブの革ひもの余っている部分は5cm以内にすること。